



(Japan Skipjack tuna Society)

令和6年度 通常総会 次第

1. 開 会

2. 会 長 挨 拶

3. 議 長 選 出

4. 議事録署名人氏名

5. 議 事

第1号議案 令和5年度事業報告について

第2号議案 令和5年度収支決算報告について

第3号議案 日本カツオ学会の解散について

第4号議案 資産の寄附について

第5号議案 その他

6. 閉 会



(Japan Skipjack tuna Society)

第1号議案

令和5年度事業報告

1. 概況報告

日本カツオ学会は、カツオに興味や関心を持つ、あらゆる人々が集い、各種の情報交換をはじめ、相互の交流と連携をもとに、調査研究を継続して行う機会、協働の図れる場づくりを目指して、産学官からなる発起人のもとに平成23年1月8日 高知県黒潮町で誕生した。

本学会は、会費収入を主たる財源としていることから、その後、徐々に発起人や関係自治体などを中心として、会員確保の活動を開始するとともに、カツオに関係する企業群にも本学会への参画について声掛けしてきた。

2. 令和5年度カツオセミナー&フォーラム

令和5年11月16日(木)、東京日本橋ホールを会場として「令和5年度カツオフォーラム in 日本橋～鯉節から学ぶSDGs～」を開催した。カツオフォーラムとしては初の東京開催となった。鯉節を通じてカツオの今日的価値や資源問題について広く社会に訴求することを目的にした。漁業関係者や食品メーカー、大学研究者など、105名の参加者となり、会場をほぼ埋める収容となった。

(プログラム等は別紙参照)

3. 役員会

令和5年度通常役員会は、令和6年3月12日(火)15時から開催。また臨時役員会をオンライン会議およびメールにより開催。

協議事項としては、

- ① 令和5年度事業報告について
- ② 令和5年度収支決算報告について
- ③ 日本カツオ学会の解散について
- ④ 資産の寄附について
- ⑤ その他

以上を、通常総会へ諮ることとした。

4. 会報誌の発行

「会報誌」の発行は、本学会を広く広報するとともに会員確保の一助とするために、当初より計画して検討してきた。令和5年度は2回発行を目標としていたが、事務局の力不足により作成できなかった。

第1号議案（別紙）

令和6年1月26日

一般財団法人 東洋水産財団

食品科学奨励 結果(経過)報告書 講演会採択者用

申請者	所属・役職	日本カツオ学会・会長
	(ふりがな) 氏 名	かわしま しゅういち 川島 秀一
記入者	所属・役職	日本カツオ学会・事務局長
	(ふりがな) 氏 名	よしもち たけし 吉用 武史

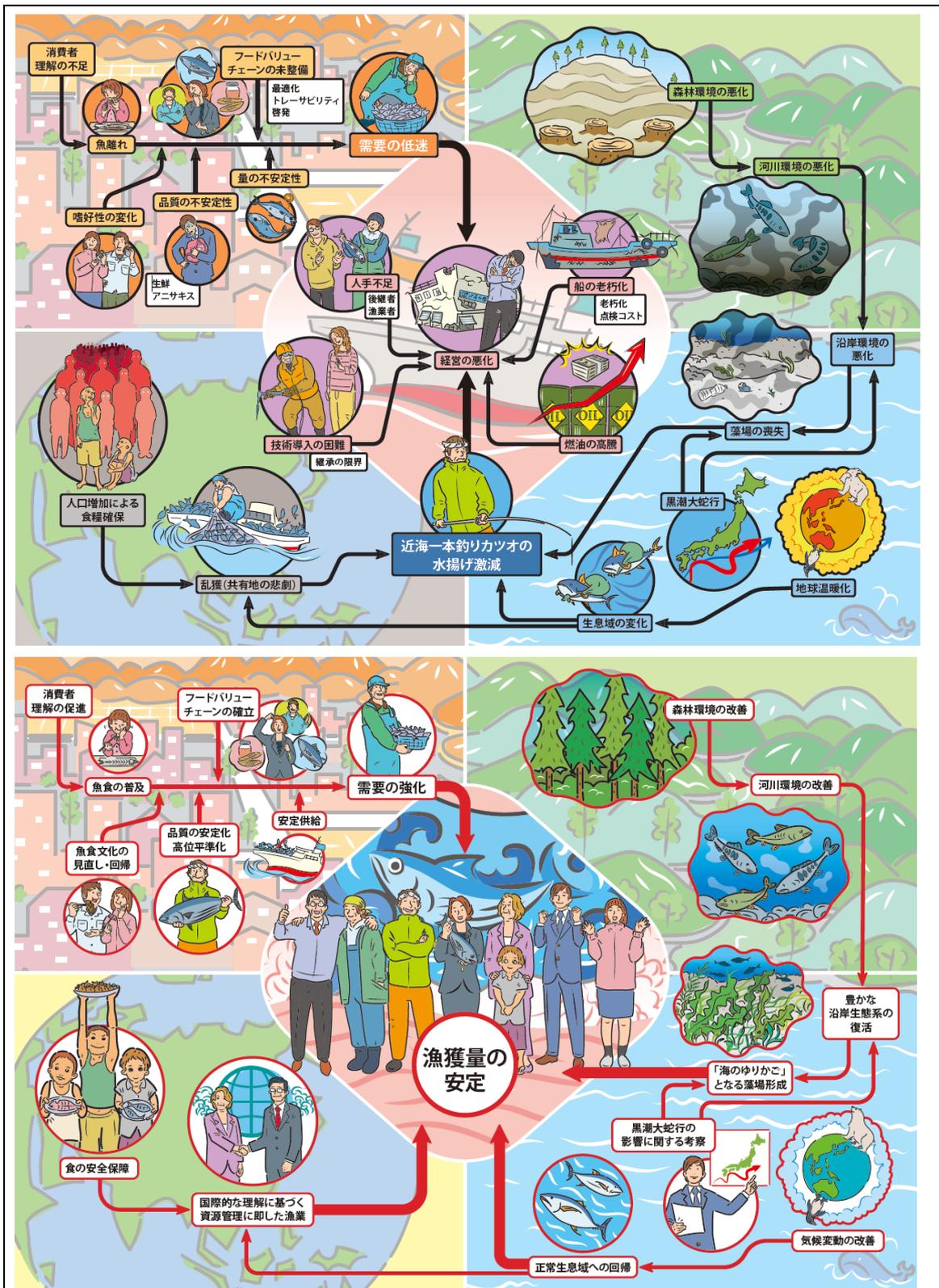
1. 申請内容	カツオフォーラム in 日本橋 ～江戸から学ぶ、カツオ資源の持続可能性～	
2. 講演テーマ	鰹節から学ぶ SDGs	
3. 講演詳細	日時	令和5年11月16日(木)13時～16時
	場所	日本橋ホール(東京都中央区日本橋2丁目5-1)
4. 講演者	<ul style="list-style-type: none"> ・永松真依 (渋谷カツオ食堂、鰹節伝道師)「手削りする鰹節の魅力」 ・土居幹治 (マルトモ(株) 専務取締役、だしの伝道師®)「だしを極めて健康生活」 ・高津伊兵衛 (㈱にんべん 代表取締役社長)「鰹節の持続可能性・SDGs」 ・西村 協 (枕崎水産加工業協同組合 代表理事組合長) 「SDGs とカツオ資源の有効活用 カツオを通じた国際連携」 ・パネルディスカッション 進行：受田浩之 (日本カツオ学会副会長、高知大学理事) 登壇：永松真依、土居幹治、高津伊兵衛、西村協 	
5. 講演内容	<p>【フォーラム主旨】</p> <p>鰹節は和食の根幹をなす食材です。私たちが食べる料理の多くに鰹出汁が使われています。しかし実際に鰹節を削ったことはあるでしょうか？私たちが普段目にするものは、削り節の小分けパックや、出汁調味料ではないでしょうか。料理の手間や負担を減らすために、より簡単に、より美味しく出汁を楽しめるよう、企業が商品開発を積み重ねてきたお陰です。その代わりに、鰹節に今と昔で違いはあるのか、日本の伝統的な文化として未来に残していけるのかなど、私たちが鰹節やカツオそのものに想いを馳せる機会が減りつつある現状があります。</p> <p>今一度鰹節に目を向け、その魅力や今日的な価値を再認識すると共に、漁業資源としてのカツオについても一緒に考えてみましょう。</p> <p>【講演内容まとめ】</p> <p>本フォーラムでは、鰹節を通じてカツオの今日的価値や資源問題について広く社会に訴求することを目的にした。漁業関係者や食品メーカー、大学研究者など、105名の参加者にお集まりいただき、会場をほぼ埋める収容となった。</p>	



渋谷カツオ食堂の永松真依氏は「手削りする鰹節の魅力」と題し、実際に鰹節を使った料理を消費者に直接提供する立場として、削り実演を含めてかつお節愛を全力で伝えていただいた。マルトモ土居幹治氏は「だしを極めて健康生活」をテーマに講演。だしの伝道師でもあり、ユーモアも交えて鰹節の美味しさや健康面の魅力にも触れていただいた。東京・日本橋の老舗、にんべん高津伊兵衛氏は「鰹節の持続可能性・SDGs」と題して講演。枕崎水産工業協同組合の西村協氏は「SDGsとカツオ資源の有効活用・カツオを通じた国際連携」をテーマに枕崎市とミクロネシアの国際連携にも触れていただいた。

パネルディスカッションでは、ファシリテーターに日本カツオ学会副会長、高知大学理事の受田浩之、そして4人の講師を迎え、「鰹節から学ぶSDGs」をテーマに、それぞれの立場から意見交換した。受田はカツオ・鰹節がDHAやEPA、アンセリン、セロトニン等の機能性成分を有し、アミノ酸由来の環状ジペプチド（DKP）の生理活性に着目した研究事例を紹介した。DKPにはセロトニンの再取込阻害活性、学習意欲改善効果があるとし、鰹節のおいしさを高める一因（仮説）と指摘。そのDKP含有量が鰹節の製造工程の一つである培乾にあると考え、工程が多い本枯鰹節に含有量の多さを確認している。さらに滋養強壮、抗疲労効果が確認されているアンセリンについて、高知で135本のカツオのアンセリン含有量を分析したところ、100g当たりの可食部で250~260mgが含まれ、春先と秋口、初カツオと戻りカツオの頃に含有量が増えることを確認。その時期はカツオの回遊距離が伸びることで発生する疲労を、アンセリンが緩衝作用としての役割を果たしている可能性があり、実際にヒトにおける眼精疲労抑制効果の検証結果も紹介した。

また、鰹節の持つ本質的な価値や消費者の受け止め、資源問題、巻き網と一本釣りの漁法、MSC認証など、様々な角度からパネリストと考えを共有した。その上で、最終的に漁獲量を安定していくためのシナリオをイラスト（下図）で示し、消費者の理解不足を問題視し、「魚類の一つ、カツオを残していくこと。おそらくSDGsそのもの」とディスカッションをまとめた。



6. 添付資料

・カツオフォーラムチラシ

提出先: 〒108-0075 東京都港区港南 2-13-40 東洋水産(株)内

一般財団法人 東洋水産財団 宛

令和5年度

カツオフォーラム in 日本橋



SDGS 鰹節から学ぶ



令和5年

日時

11月16日 木

先着
200名様

13:00▶16:00(開場/12:30)

場所

日本橋ホール

東京都中央区日本橋2丁目5-1

<https://www.nihonbashi-takashimaya-mitsui.jp/hall/>

鰹節は和食の根幹をなす食材です。私たちが食べる料理の多くに鰹出汁が使われています。

しかし実際に鰹節を削ったことはあるでしょうか？私たちが普段目にするものは、削り節の小分けパックや、出汁調味料ではないでしょうか。

料理の手間や負担を減らすために、より簡単に、より美味しく出汁を楽しめるよう、企業が商品開発を積み重ねてきたお陰です。

その代わり、鰹節に今と昔で違いはあるのか、日本の伝統的な文化として未来に残していけるのかなど、私たちが鰹節やカツオそのものに想いを馳せる機会が減りつつある現状があります。

今一度鰹節に目を向け、その魅力や今日的な価値を再認識すると共に、漁業資源としてのカツオについても一緒に考えてみましょう。

参加費 無料

お申し込み方法〈一般〉

裏面をご覧ください。

お問い合わせ 日本カツオ学会 ☎088-844-8734 ✉katsuo@kochi-u.ac.jp

[主催]  日本カツオ学会

[共催]  高知カツオ県民会議

プログラム

- 13:00 ● 開会挨拶
川島 秀一 日本カツオ学会 会長
- 13:05 ● 講演〈1〉「手削りする鰹節の魅力」
講師/永松 真依 (ながまつ・まい)
渋谷カツオ食堂 | 鰹節伝道師
- 13:30 ● 講演〈2〉「だしを極めて健康生活」
講師/土居 幹治 (どい・みきはる)
マルトモ(株) 専務取締役 | だしの伝道師®
- 13:55 ● 講演〈3〉「鰹節の持続可能性・SDGs」
講師/高津 伊兵衛 (たかつ・いへえ)
(株)にんべん 代表取締役社長
- 14:20 ● 講演〈4〉「SDGsとカツオ資源の有効活用・
カツオを通じた国際連携」
講師/西村 協 (にしむら・きょう)
枕崎水産加工業協同組合 代表理事組合長
- 14:45 ● 休憩
- 14:55 ● パネルディスカッション 「鰹節から学ぶSDGs」
ファシリテーター
受田 浩之 高知カツオ県民会議 会長代理 | 日本カツオ学会 副会長 | 高知大学理事・副学長
パネリスト
永松 真依 渋谷カツオ食堂 | 鰹節伝道師
土居 幹治 マルトモ(株) 専務取締役 | だしの伝道師®
高津 伊兵衛 (株)にんべん 代表取締役社長
西村 協 枕崎水産加工業協同組合 代表理事組合長
- 16:00 ● 閉会

会場への
アクセス

- ▶ 東京メトロ銀座線・東西線/都営地下鉄浅草線「日本橋駅」直結 ▶ JR各線「東京駅」徒歩5分
※「日本橋高島屋三井ビルディング」B1階および1階よりオフィスエレベーターをご利用の上、ご来場ください。
日本橋高島屋S.C.「本館」および「新館」からのアクセスはできません。
※ 隣駅(三越前駅)の「日本橋三井ホール」は別施設です。施設名が酷似しておりますのでご注意ください。

【お申し込み】 入場ご希望の方は、①HP申込フォーム ②メール のいずれかで日本カツオ学会にお申し込みください。

①HP申込フォーム

<https://forms.office.com/r/SZYsaGgEqN>



②メール

katsuo@kochi-u.ac.jp

申込締切

11月10日(金)

事前のお申し込みがなくても、当日ご記憶いただき、入場することができます。

※個人情報、本事業の運営業務のほか、感染症対策上の管理業務に使用させていただきます。

※また、来場者から感染者が発生した場合など、必要に応じて保健所等へ提供させていただく場合がございます。予め、ご了承ください。

第2号議案

令和5年度日本カツオ学会 収支決算書

【収入の部】

費目	予算額	決算額	増減(△)額	説明
1. 会費	497,000	508,000	11,000	
個人会員	57,000	78,000	21,000	26人×3,000円=78,000円 合計78,000円
団体会員	290,000	280,000	△ 10,000	28件 × 10,000円 = 280,000円
賛助会員	150,000	150,000	0	1団体×90,000円=90,000円 2団体×30,000円=60,000円 合計150,000円
2. 雑入	500,005	500,014	9	
雑入	500,005	500,014	9	預金利息 14円 東洋水産財団 食品科学奨励金 500,000円
3. 繰越金	1,111,185	1,111,185	0	
前年度繰越金	1,111,185	1,111,185	0	
合計	2,108,190	2,119,199	11,009	

【支出の部】

費目	予算額	決算額	増減(△)額	説明
1. 事業費	1,428,300	891,540	△ 536,760	
総会費	20,000	0	△ 20,000	Zoom会議 0円
カツオセミナー費	0	0	0	
カツオフォーラム費	900,000	558,240	△ 341,760	カツオフォーラム 526,400円 (チラシ作成、会場借上、講師謝金) 東洋水産財団食品科学奨励金返還 31,840円
広報費	408,300	333,300	△ 75,000	学会HP年間ランニング費用 58,300円 カツオ課題イラスト製作費 275,000円
会報費	100,000	0	△ 100,000	
2. 事務局経費	78,000	260,248	182,248	
事務経費	78,000	260,248	182,248	振込み手数料 9,240円 郵便料等立替分 8,400円 旅費等 242,608円
3. 予備費	602,762	0	△ 602,762	
予備費	602,762	0	△ 602,762	
合計	2,109,062	1,151,788	△ 957,274	

歳入歳出決算

【収入】

【支出】

2,119,199 円 - 1,151,788 円 = 967,411 円

を翌年度へ繰り越す。

監 査 報 告 書

令和5年度日本カツオ学会の会計監査の結果を下記のとおり報告いたします。

1 監査年月日 令和 6 年 5 月 14 日

2 監査結果

令和5年度 日本カツオ学会の収支決算について監査したところ、会計諸帳簿・証票書類等、いずれも正確にかつ適正に処理され不都合な点を発見せず、正当なものと認めたので報告します。

令和 6 年 5 月 14 日

監事 増崎勝敏

監事 和泉政彦

第3号議案

日本カツオ学会の解散について

日本カツオ学会では、これまでカツオフォーラムを13回、カツオセミナーを8回開催すると共に、枕崎カツオマイスター検定や高知カツオ県民会議シンポジウムの共催など、関係組織や国内各地域の皆様方と各種活動を展開してきた。学会定款第3条（目的）にある「本会は、日本の豊かな食文化を醸成してきたカツオの価値を見直し、カツオとの『上手な付き合い方』を探るために、カツオ産業の盛んな地域と産・学・官の関係者、及び、カツオに興味のある人々が集い、情報や意見を交換して、将来にわたり、カツオに関する多面的な事業を推進することを目的とする。」を達成するため、学会運営に努めてきた。これまでにカツオ資源保全を中央要望として明記したカツオフォーラム気仙沼大会宣言の森山農林水産大臣（当時）への直接手渡しや、学会活動10周年を記念した10年史の刊行、高知カツオ県民会議が平成28年度に発足することの切っ掛けとなるなど、学会活動を続けてきたことの社会的な意義は確実にあったと認識している。

しかしながら初期の学会の創設を支えた役員の多くが所属元の職務の変化や高齢による引退等により、学会運営への参画が難しくなり始めていることに加え、事務局機能も人員体制面の問題から厳しい状況にある。現状では今後の学会活動の継続は困難であり、定款に定める第3条（目的）や第4条（事業）を今後も堅持することは非現実的である。また、学会運営を継承する組織の検討・探索・打診もした結果、いずれも困難との結論に達している。

このような状況下、実質的な活動が無いまま継続することで学会組織が形骸化するよりは、正式な手続きのもと学会組織を解散することが適切と考えられた。ついては、定款第37条（解散）にある「本会は、総会において出席した議決権を有する会員の4分の3以上の議決を経なければ解散できないものとする。」の定めに従い、「日本カツオ学会の解散について」を令和6年度総会の第3号議案として審議する。

なお、もし解散する場合、既に入金いただいている令和6年度分の会費については、各会員と個別に連絡を取りながら適切な方法で返金手続きを行う。そのうえで残った残余資産の取り扱いについては、別途、第4号議案にて審議を行うものとする。

【参考資料】

・定款に基づく現会員状況（令和7年2月時点）

個人会員：23名

団体会員：26団体

愛南町役場、勝浦市役所、黒潮町役場、気仙沼市役所、土佐清水市役所、中土佐町役場、奈半利町役場、ひたちなか市役所、枕崎市役所、本部町役場、焼津市役所、

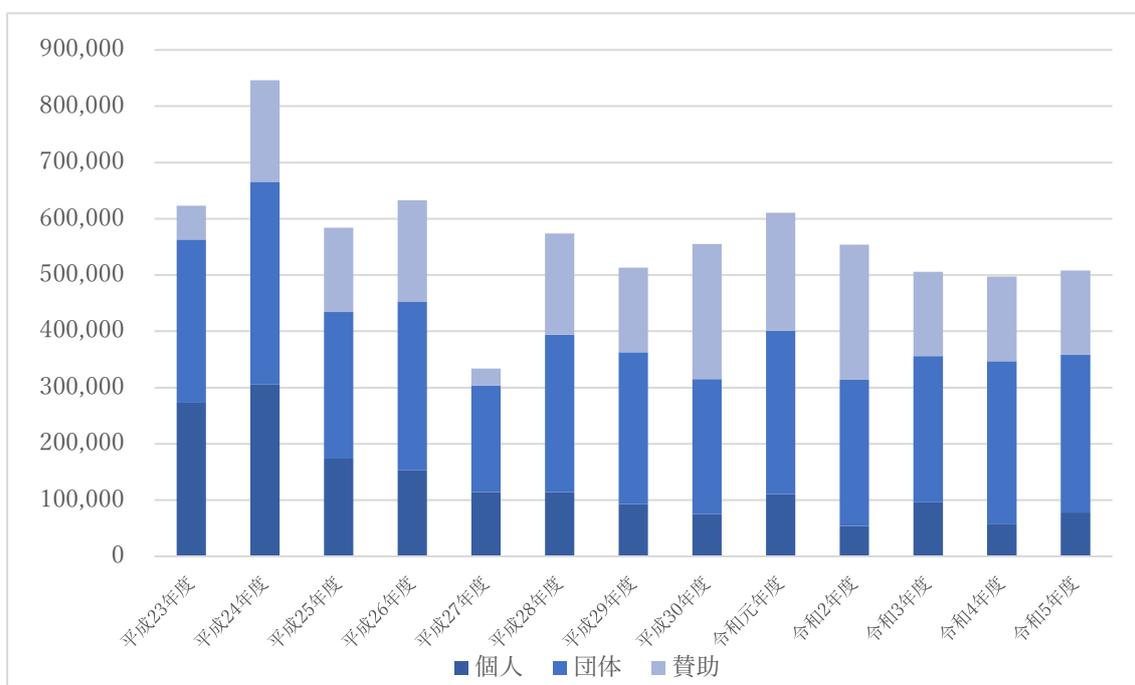
伊良部漁業協同組合、勝浦漁業協同組合、気仙沼漁業協同組合、高知かつお漁業協同組合、枕崎市漁業協同組合、本部漁業協同組合、山川町漁業協同組合、

(株)加寿翁コーポレーション〔土佐料理司〕、(株)カネマン、(株)シティネット、砂浜美術館、(有)日昇、日本鯉節協会、(株)にんべん、ファーマテック(株)、

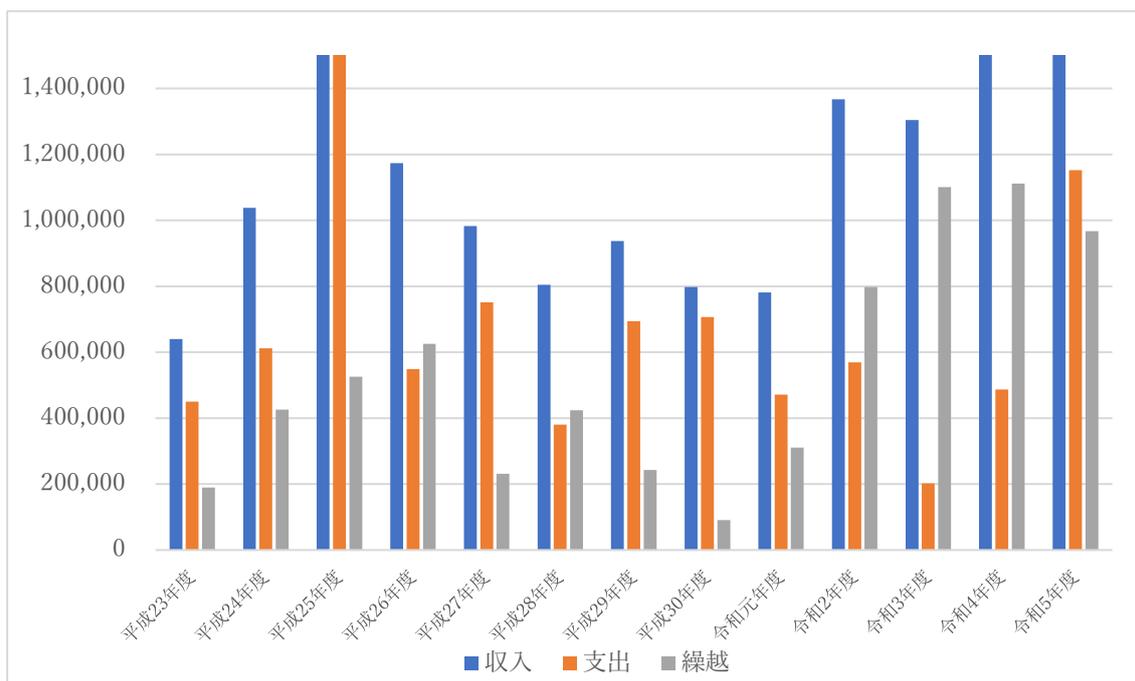
賛助会員：3団体

高知県漁業協同組合、高知県漁業協同組合 佐賀統括支所、マルトモ(株)

・会費収入内訳



・収支決算状況



※会費収入以外に以下の補助金等を収入に含む。

平成 25 年度：国交省「地域間共助連携事業」800 万円

カツオがつなぐ絆～黒潮ネットワークによる広域的地域間共助～の実施

令和 2 年度：東洋水産財団「食品科学奨励金」50 万円

日本カツオ学会 10 年史の刊行

令和 5 年度：東洋水産財団「食品科学奨励金」50 万円

令和 5 年度カツオフォーラム in 日本橋～鰹節から学ぶ SDGs～の実施

令和6年度 日本カツオ学会収支予算書（案）

収入の部

単位:円

費目	前年予算額	予算額	増減額	説	明
1. 会費	497,000	0	△ 497,000		
個人会員	57,000	0	△ 57,000	× 3,000円 =	0円
団体会員	290,000	0	△ 290,000	× 10,000円 =	0円
賛助会員	150,000	0	△ 150,000	× 30,000円 =	0円
2. 雑入	500,005	14	△ 499,991		
雑入	500,005	14	△ 499,991	預金、金利(令和6年度利息実績額)	
3. 繰越金	1,111,185	967,411	△ 143,774		
前年度繰越金	1,111,185	967,411	△ 143,774		
合計	2,108,190	967,425	△ 1,140,765		

支出の部

単位:円

費目	前年予算額	予算額	増減額	説	明
1. 事業費	1,428,300	58,300	△ 1,370,000		
総会費	20,000	0	△ 20,000	令和7年3月開催予定	
カツオセミナー費	0	0	0		
カツオフォーラム費	900,000	0	△ 900,000		
広報費	408,300	58,300	△ 350,000	R7年9月までHPにて解散の	58,300円
会報費	100,000	0	△ 100,000		
2. 事務局経費	78,000	53,000	△ 25,000		
事務経費	78,000	53,000	△ 25,000	通信運搬費	20,000円
				監事旅費(1人分)	13,000円
				土佐清水～黒潮町(1泊2日)	13,000円
				消耗品等	20,000円
3. 予備費	602,762	856,125	253,363		
予備費	602,762	856,125	253,363		
合計	2,109,062	967,425	△ 1,141,637		

日本カツオ学会の主な活動「カツオフォーラム」

カツオと縁の深い全国各地において、「カツオフォーラム」を年1回開催している。

全国各地のカツオ漁やカツオ産業の現状や課題に関する声を関係者から直接聞き、学会を通じて省庁や全国に発信することを目的とする。

開催場所（2020年度はコロナのため開催中止）



2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2021年度	2022年度	2023年度
高知県 黒潮町	鹿児島県 枕崎市	沖縄県 宮古島市	宮崎県 日南市	高知県 中土佐町	宮城県 気仙沼市	高知県 高知市	高知県 高知市	和歌山県 新宮市・那智勝浦町	三重県 志摩市	オンライン 開催	高知県 高知市	東京都 日本橋

（2014年度）

基調講演として、水産総合研究センターの宮原正典理事長が発表。水産庁資源管理部の枝元真徹部長が来賓祝辞。

（2015年度）

フォーラムで気仙沼大会宣言を採択。菅沼茂市長が森山裕農林水産大臣に直接手渡す。

（2016年度）

基調講演として、水産庁 増殖資源部 漁業資源課の神谷崇課長が「中西部太平洋におけるカツオ資源の調査研究の現状と今後」について発表。

また、特別講演した土佐料理 司の竹内太一社長の提案により「高知カツオ県民会議」が2017年2月9日に発足する。初代会長は高知県の尾崎正直知事、会長代理に日本カツオ学会の受田浩之副会長が就任する。

（2017年度）

高知カツオ県民会議との共催によりシンポジウムを開催。



日本カツオ学会の主な活動「カツオセミナー」

カツオに関する調査研究の発表の場として、「カツオセミナー」を年1回開催している。

基調講演者から最新の研究結果を紹介いただくと共に、学会会員からも発表を公募し、各種情報共有を促進することを目的とする。

開催場所（2020、2021年度はコロナのため開催中止。）

2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
		高知大学	高知大学	高知大学	高知大学	高知市	宮城県 気仙沼市	東京海洋 大学	東京海洋 大学

各回のテーマと基調講演者

（2012年度）食品としてのカツオ節の未来を考える：和田俊教授（東京海洋大学大学院）

（2013年度）かつお一本釣り漁業の収益性改善に向けて：山下秀幸氏（水産総合研究センター）

（2014年度）中西部太平洋のカツオ漁業と資源の現状：小倉末基氏（国際水産資源研究所）、杉本信幸氏（味の素株式会社）

（2015年度）食品機能から見たカツオ、かつお節について考える：山本万里氏（農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所）

（2016年度）カツオ資源の管理方針を考える：神谷崇氏（水産庁増殖推進部漁場資源課長）

（2017年度）カツオによる復興と地域づくり：若林良和教授（愛媛大学学長特別補佐）、久塚智明氏（㈱F B Tプランニング代表取締役）

（2018年度）カツオの価値と持続可能性を考える：小倉末基氏（水産研究・教育機構）、笹倉豊喜氏（フュージョン有限会社代表取締役）、鈴木允氏（MSC日本事務所）

（2019年度）かつお節の食品的・文化的価値を考える：荻野目望氏（株式会社にんべん）

